

平成29年度日田支部総会の報告
(公社)大分県建築士会日田支部広報部長 秋 和夫

平成29年05月27日午後4時30分より、平成29年度(公社)大分県建築士会日田支部通常総会が開催されました。野村副支部長による成立宣言の後、鈴木孝幸支部長の挨拶が行われました。



(挨拶をする鈴木支部長)

議長には羽野福美氏が選出され、総会審議については、第1号議案から第3号議案までの全てが原案どおり可決されました。

議事

第1号議案

平成28年度事業報告及び収支決算承認の件
会計監査報告

第2号議案

平成29年度事業計画案及び収支予算案の件

第3号議案

その他



(羽野福美議長による議案審議)



(総会会場の様子)

総会終了後には、(株)九州木材市場代表取締役田中昇吾氏による「日田の木材業界の現状と未来」と題した講演が行われました。



(講演をする田中昇吾社長)

日田林業の歴史は、今から約 500 年前に始まり、戦後の復興と高度経済成長に伴い、木材産業が発展してきました。日田市の面積の 83%が森林で、その殆どが杉桧で占めています。昔は、急斜面を馬で引っ張り、ワイヤーで吊るして山から山へ移動させていましたが、今は、林道を整備して、トラックを利用するのが主流です。伐採作業を重機等の利用により、若い伐り出し業者も増えてきました。

「植えて、育てて、伐って、活用する」のが林業のサイクルです。日田では、昔から挿し木苗を使った植林を行っています。挿し木の品種改良も古くから行われてきましたが、一般的に住宅用の木材に育つまでには、50年ほどの月日がかかります。自然の山のなかでは、植えたばかりの小さな苗木のまわりに雑草などが生い茂ります。苗木に日が当たらなくなるなり、うまく育たなくなるので下草刈りやつる切りを毎年行いますが、蜂やマムシなどが出るので大変です。林業では、手間のかかる植林や下草刈りの担い手不足が深刻な問題です。

引き続き、講演者の田中昇吾氏と、賛助会員を含めた 26 名で懇親会が、開催されました。賛助会員の河津富生氏による乾杯で始まり、今後の地域振興策で、熱い議論を交わしながら、親交を深めました。



(賛助会員との懇親会の様子)